

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は明治40年に設立され、今年で創立116年を迎える工業高校である。35,000名を超える卒業生は産業界や自治体など様々な分野で活躍し、産業社会の発展に大きく貢献している。

これまで幅広い分野で産業社会を支える人材を輩出してきた本校は、今後も「大阪No.1の工業高校」として経済社会の様々な情勢の変化に対応し、技術者・科学者として必要な力を身につけた人材を育成するとともに、社会の発展に貢献するために引き続き重要な役割を担っている。

これらをふまえ、本校では次の項目をめざす学校像として掲げ、その実現に向けた教育活動を実践するものである。

- 1 Society 5.0 で実現する社会に必要な、即戦力となる技術者・科学者を育成する。
- 2 全学科から進学できる工業高校として、高大7年間を見据えた継続的な学びを行う。
- 3 ICT-Literacy の習得を重点に学科・教科間のネットワークを充実するとともに、全学科の知識・技術を総合的に活用することができる工業高校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1)新しい知識・情報・技術があらゆる領域で重要性を増す「知識基盤社会」において、知識の理解の質を高めることで確かな学力を身につけさせるとともに、技術者・科学者として必要な資質・能力を育成する。

ア 「Society5.0」で実現する社会を担うための力、国際社会を生き抜く力の育成に向け、ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践することで学びに対する意欲を向上させ、「知識基盤社会」において必要な確かな学力を身につけさせる。

イ すべての教育活動を通じ、課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を育むことで専門的な知識・技術の定着をはかるとともに、多様な課題に対応するための課題解決能力を育成する。

※学校教育自己診断（教職員）の質問「授業においてICT機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和7年度には90%以上にする。
(R4 75%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「授業においてICT機器を活用している」に対する肯定的回答率を令和7年度には90%以上にする。
(R4 81%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「グループ学習や自ら調べて考える学習、課題を発見し協働して取り組む学習などの授業において、授業内容がよく理解できたか」に対する肯定的回答率を令和7年度には90%以上にする。(R4 82%)

(2)生徒が、基礎的・基本的な知識や技能の習得も含め、学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の興味・関心等に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を行うことにより、個に応じた指導の充実をはかる。

ア 生徒の自己実現に向け、少人数授業や習熟度別授業、グループ学習を展開するとともに、授業内容の改善により理解度、満足度を向上させる。

イ 工業科目で学んだ内容に関連した職業資格や各種検定試験にチャレンジすることはもとより、職業資格を取得する意義、職業との関係、職業資格を制度化している目的について探究する。また、技術者・科学者として国際的な舞台で活躍できるよう、実用英語能力検定などにもチャレンジすることで4技能5領域にわたる総合的な語学力を習得する。

※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して学力がついたと感じていますか」に対する肯定的回答率を令和7年度には85%以上にする。
(R4 77%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思いますか」に対する肯定的回答率を令和7年度には95%以上にする。(R4 89%)

※英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を令和7年度には30%以上にする。(R3 29% R4 20%)

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1)学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、たくましく生きる力を育むために必要な資質・能力を身につけることができるよう、基本的な生活習慣を確立させ、社会のルールを理解させる。

ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンの使用に関する指導を行い、「時間を守る」「身だしなみを整える」「集団としてのルールを遵守する」ことを通じて道徳心や規範意識を醸成する。

イ 合同LHRを活用し、交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心を育み、自他を大切にするとマナーを守る態度を育てる。

※遅刻が常態化する生徒（年間遅刻10回以上）を令和7年度には15名以下とする。(R3 24名 R4 30名)

※交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座の事後アンケートによる肯定的回答を、令和7年度には全て95%以上にする。
(R4 交通安全講話91% 薬物乱用防止啓発講座88% 消費者被害防止啓発講座95%)

(2)他者を尊重し思いやる心、適切な人間関係の構築に向けたコミュニケーション能力、多様性を受け入れる力などを育むための人権教育を推進し、人権尊重のための知識や態度を養う。

ア 自分自身はもとより、人との関わり、集団や社会との関わりに関する道徳的価値についての理解を基に、様々な体験や思索の機会等を通して人としての在り方生き方について考えを深めさせる。

イ 情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育てるため、自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を徹底し、技術者・科学者としての倫理を醸成する。

※学校教育自己診断（生徒）の質問「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」に対する肯定的回答率を令和7年度には95%以上にする。(R4 89%)

※学校教育自己診断（生徒）の質問「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」に対する肯定的回答率を令和7年度まで95%を維持する。(R4 95%)

(3)卒業後の社会的・職業的自立や自分らしい生き方を実現する中で社会貢献できるよう、キャリア教育の充実をはかるとともに、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する。

ア 企業や大学の見学をはじめ、外部講師による講演会・説明会（進学・企業就職・公務員）などを通じ、進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める。

イ 実力テストの結果や過去の大学入試データなどに基づき、各教科と連携した定期的な進学補講を行う。

- ウ キャリアパスポートノートを作成させることで、自己のキャリア形成はもとより Society5.0・SDGs に関する内容にも触れ、情報化やグローバル化、地球環境などに対する意識付けをはかる。
- エ 生徒会活動を活性化し、部活動を推進することによって生徒一人ひとりの自主性・社会性を育む。
- オ 生涯にわたって自分らしい生活を実現するために、心身の健康や体力の保持増進をはかる。
- ※令和7年度まで就職内定率100%を維持する。(R3 100% R4 100%)
- ※大阪工業大学の専門高校特別推薦合格率を令和7年度まで80%を維持する。(R3 84% R4 84%)
- ※部活動加入率を令和7年度には75%以上とする。(R3 70% R4 72%)

3 専門的な知識・技術の定着

- (1) 各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して自ら学ぶ意欲を高めるとともに、様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う。
- (2) 興味関心の増加をはじめ、将来に向け最も重要である進路決定につなげるため、社会において必要な専門資格試験や検定に積極的にチャレンジし、合格率を高めるとともに、多くの生徒にジュニアマイスター顕彰を受彰させる。
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校の資格取得の対策についてどのように思うか」に対する肯定的回答率を令和7年度には95%以上にする。(R4 89%)
- ※ジュニアマイスター顕彰受彰者を令和7年度まで毎年65名以上輩出する。(R3 63名 R4 96名)

4 学校の組織力向上

- (1) 全教職員が一丸となって組織的に本校の魅力について対外的に発信し、志願者増に繋げる。
- (2) 総合募集への移行を見据え、将来計画委員会等において本校の更なる魅力化について検討を進める。
- (3) 同窓会や各種団体などとの連携による教育コミュニティを構築し、教員個々の教師としての力量を高めるとともに、学校力向上に向けた環境整備をはかる。
- (4) 長時間勤務の縮減に向けた取組みや在校等時間管理・健康管理を行うとともに、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど、「働き方改革」に取り組む。
- ※入学者選抜における志願倍率を、毎年1倍以上確保する。(R3 選抜 0.87 R4 選抜 0.92 R5 選抜 0.86)
- ※学校教育自己診断（生徒）の質問「本校に入学して良かったと思うか」に対する肯定的回答率を令和7年度には90%以上にする。(R4 82%)
- ※本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を、毎年各学科1回以上開催する。
- ※在校等時間管理に努め、時間外在校時間月平均80時間以上の教職員を、令和7年度には10%以下にする。(R4 13.1%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>府に移管し2年目となり、前年度初めて実施した学校教育自己診断アンケートの結果と今年度2回目実施の結果を比較し分析する。各質問での「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の合計結果の今年度%と昨年度[%]は以下のとおりである。</p> <p>【生徒】</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」 88% [81%] 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 80% [71%] 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 96% [92%] 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 87% [87%] 「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」 70% [66%] 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 92% [89%] 「体育祭（文化祭・修学旅行）は楽しく行えるよう工夫されている」 体育祭 92% [85%] 文化祭 91% [91%] 修学旅行 91% [86%] 「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」 88% [77%]</p> <p>【保護者】</p> <p>「学校に行くのを楽しみにしている」 89% [87%] 「授業がわかりやすく楽しいと言っている」 75% [72%] 「学校の生徒指導の方針に共感できる」 85% [80%] 「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」 95% [92%] 「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 82% [87%] 「子どもの生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」 93% [90%] 「教育情報について、提供の努力をしている」 94% [91%] 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがる」 87% [89%]</p> <p>【教職員】</p> <p>「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」 93% [95%] 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 79% [85%] 「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」 82% [80%] 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 93% [96%] 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」 92% [93%] 「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」 84% [86%] 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」 82% [89%]</p>	<p>第1回(6月9日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度学校経営計画及び学校評価（案） <ul style="list-style-type: none"> ・全委員の賛成を得られた。 ○令和5年度年間行事予定について ○令和4年度進路状況について ○令和5年度スクールポリシーについて <ul style="list-style-type: none"> ・7月から8月にかけて検討し、委員の先生方のご意見やアドバイスをメールでお伺いする。 <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校経営計画で志願者増に向けて学校ホームページでのアピールや文化祭の来場者を増やすとあるが、それ以外で考えられていることはあるか？」 →「中学校の先生や塾関係者へのアピールで進学実績などの工業高校の理解を進めたい。また、生徒のロコミも大切にし、クラブ活動などの魅力も発信していきたい。」 ・「入学時のアンケートなどで進学動機などのデータはとっているか？中学校の先生の指導か、塾の指導か、または親の指導かなど、誰の影響が強いかを裏付けを取ればよいと思う。」 →「来年以降検討させていただきます。」 ・「大阪公立大学高等専門学校は大阪公立大学工学部への推薦入試の特別制度がある。都島工業高校から大阪公立大高専への何らかのルートができれば大阪公立大学への一気通貫的なルートができ進学者が増やせる。大阪公立大高専と連携はあるのか？」 →「大阪公立大高専との連携は今のところない。」 ・「今まで大阪公立大高専は競争相手ですか？」 →「大阪公立大高専の入試は2月にあり、本校の入試は3月にある。高専を不合格になった生徒が本校を受験しているケースも多い。高専に再チャレンジし4年生に編入する生徒もいる。」 ・「高専も少子化の影響を受けている。今後は設置者も同じになったので連携しながら大学までのルートを中学生にアピールできれば魅力のある特色になると思う。検討してください。」 →「ありがとうございます。検討します。」 <p>第2回(11月17日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度学校経営計画及び学校評価（中間評価） <ul style="list-style-type: none"> ・全委員の承認を得られた。 ○スクールポリシーについて ○令和5年度現在の進路状況について <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪公立大学高等専門学校との連携が一步踏み出したことを嬉しく思う。高専の方をこの学校協議会に委員として招き相互連携すれば素晴らしいのではないか。」 →「検討します。」 <p>第3回(3月21日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度学校経営計画及び学校評価（最終評価） <ul style="list-style-type: none"> ・全委員の承認を得られた。 ○令和6年度学校経営計画及び学校評価（案） <ul style="list-style-type: none"> ・全委員の承認を得られた。 ○令和5年度進路状況について <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「卒業生が減少したということですが、どれぐらい減ったのですか。」

<p>「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」 92% [95%]</p> <p>今年度のアンケート結果について、生徒・保護者の評価はほとんどの質問で昨年より上回った。本校の教育活動に対し教職員が昨年度の結果を踏まえ今年度の教育活動を改善し実践したことに対する肯定的な評価であると考ええる。</p> <p>生徒では特に「生徒1人1台端末を効果的に活用している」の評価が88%と11ポイント上昇しており、リーディングGIGAハイスクール研究校に指定され、全教室にプロジェクタや電子黒板が設置されたことにより、教員が生徒のChromebookと合わせて使用した授業を展開していることに対する評価と考える。しかしながら、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」が70%と昨年より4ポイント上昇したものの、さらに生徒に寄り添った指導が必要であると考ええる。</p> <p>保護者では「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の評価が75%と昨年より3ポイント上昇したが、教員はさらにわかりやすい授業を心がけ、実践する必要があると考える。</p> <p>教職員の結果は多くの質問での昨年度より評価が微減した。なかでも「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」が6ポイント下がって79%であり、今年度末の評価を次年度へ活かせるように教職員全体で総括をしていかなければならない。「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」は2ポイント上昇し82%になっており、昨年度の反省が活かされているものと考ええる。さらにカウンセリングマインドを持った生徒指導を心がけていけるよう取り組んでいきたい。来年度はポイントをより上昇することを目標に教職員の連携を密にして生徒指導を行っていきたい。</p>	<p>→「今年の卒業生は283名です。昨年は342名なので59名減っている。入学定員が今年の卒業生からクラス定員が40名から35名になったことと定員割れをおこした学科もあったのが原因です。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合募集制のメリット、デメリットの情報収集を行ったということですが、どういったメリット、デメリットが分かったか。」 <p>→「学科募集のメリットは入学段階で学科が決まっているので、専門の勉強を1年最初から始めていけるという最大のメリットがある。デメリットは入学した学科の勉強が自分の思っていたものと違う場合があることや、中学段階でまだよく分かっていないのに志望学科を決めなければならないのが現状である。例えば本校は電験3種の合格者が毎年全国でトップや2位、3位になっている。入学時から電気電子工学科として1年の最初から専門的な学習を行っているというのが一つ大きな要因とも考えられる。中学生にどこまでその専門性がわかるかという課題もある。いろいろと検討し議論しなければならない。」</p> <p>→「工業系の高校でも多様性が必要だと思う。総合募集する学校もあればそうでない学科募集の学校もあり、受験生に選択できる余地を残すことが重要と考える。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遅刻10回以上の理由はどんなものがあるか。若年層介護などはありますか。」 <p>→「今年1280件の遅刻があった。これは電車の遅延等は除いている。理由は寝坊が461件、体調不良が484件である。10年ほど前は遅刻理由としては寝坊が圧倒的に多かったが、コロナ以降この学校も体調不良というのがすごく増えている。並びに通院である。本校も通院が191。これに関しても他校でも非常に増えている。家事都合という欄もあるが、これに関しては20件ほどしかついていないので、ヤングケアラー等で遅れてくるというよりも体調不良者が多く出ているというような結論になると思う。」</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ア ICTの活用による効果的・効率的な授業を実践し、学びに対する意欲・学力を向上させる	(1) ア 全ての授業において1人1台端末を積極的に活用するとともにリーディングGIGAハイスクール研究校に整備される新たな設備を効果的に活用し、座学においては視覚的アプローチ等を積極的に行い、実験や実習においては1人1台端末を活用した統計処理や動画検証を行うなど、ICTの活用で教育効果を高める	(1) ア・全ての授業において、1人1台端末等を積極的に活用し、教職員アンケートにおける「授業でICT機器を活用している」との回答を80%以上とする [75%] ・また、生徒アンケートにおける「授業でICT機器を活用している」との回答を85%以上とする [81%]	(1) ア・教職員アンケートの「授業においてICT機器(クロームブック、プロジェクタ、実習パソコンなど)を活用している」の質問に対し肯定的な回答は92%であった (◎) ・生徒アンケートの「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」の質問に対し肯定的な回答は88%であった (○) リーディングGIGAハイスクール研究校に整備された新たな設備を様々な教育活動の中で効果的に活用できた
	イ 課題を発見し解決する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力をはぐくむことで専門的な知識・技術の定着をはかる	イ 工業技術基礎・実習・課題研究をとおしてPBLを実践する。これにより発見した課題について、解決策を見出すためのディスカッションを行う過程でヒントを与え、生徒同士で議論を深めさせる。そうすることで思考力・判断力・表現力を養うとともに、研究の成果をまとめ、発表することでプレゼンテーション力を向上させる	イ 学年・学科ごとにPBL発表会を開催し、研究成果を共有する。3年生の課題研究発表会では1・2年生が見学する機会を設け、次年度以降に取り組む自身の研究内容についてイメージさせる。また、1・2年生が回答するアンケートにおいて、「3年生の研究内容にかかる評価」を80点以上とする [83点]	イ 理数工学科を除き、3年生の課題研究発表会を1月に実施した。5学科の2年生へのアンケート「3年生の研究内容にかかる評価」の回答の平均結果は83点であった (○)
	(2) ア 習熟度別学習・グループ学習を展開し、積極的かつ協働的に学ぶことを通じて理解度、満足度を向上させる	(2) ア 各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、問題を提起し、グループ学習を中心としたアクティブ・ラーニングを実践することで互いに教え合う雰囲気を醸成する。それらを通じて積極的に学びに向かう態度を育成し、授業の理解度、満足度を向上させる	(2) ア・生徒アンケートにおいて、「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」とする回答を85%以上とする [82%] ・保護者アンケートにおいて、「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」に対する肯定的回答を80%以上とする [72%]	(2) ア・「対話を重視した授業内容であり、よく理解できた」「理解できた」の回答は80% (△) ・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的回答は75% (△)
イ 職業資格や各種検定試験にチャレンジするとともに、職業資格を制度化している目的について探究する	イ PBL学習を通じて職業観を高め、その実現に必要な知識・技術や資格との関連について調べ学習を行う。その上で、めざす資格を取得するための目的を明確化させるとともに、自己のキャリアイメージを具体化し、資格取得	イ・職業に必須である高度な資格として、第三種電気主任技術者3名以上、測量士補20名以上の合格者を輩出する [電験三種3名(上期)、測量士補19名]	イ・第三種電気主任技術者(上期)4名合格 (電気電子工学科2名、機械電気科2名) 測量士補17名合格 (○)	

府立都島工業高等学校

		<p>に向けた強い志を養う。その結果、高度な資格にもチャレンジすることでめざす職種、めざす学部を意識した進路選択を実現する。</p> <p>また、知識・技能審査の一つである実用英語技能検定等の資格取得を奨励し、対策講習の実施を通して合格者を増加させる</p>	<p>・進学において国公立大学、工業高等専門学校、私立大学（関関同立・産近甲龍）への進学率を30%以上とする [32%]</p> <p>・英検等の受検者のうちCEFR A2レベル以上の資格取得者を25%以上にする [20%]</p>	<p>・国公立大学、工業高等専門学校、私立大学（関関同立・産近甲龍）への進学率は24%である（△）</p> <p>・2級9名合格（91名中） 準2級57名合格（162名中） 全体の26%がCEFR A2レベルに相当している（○）</p>
2 豊か たく ま し い 人 間 性 の は ぐ く み	(1) ア 遅刻や身だしなみ、スマートフォンに関する指導を行うことで道徳心や規範意識を醸成する	(1) ア 登校時の遅刻指導や身だしなみ指導、スマートフォンの校内使用規定に関する指導を行い、時間を守る、身だしなみを整えるなど、集団でのルールを遵守することの意義や必要性について繰り返し指導する。そうすることで社会の中で協働し、力強く生き抜くための基礎となる道徳心や規範意識を醸成する	(1) ア 粘り強く繰り返し指導することにより、遅刻等が常態化する生徒を20名以下に減少させる [遅刻10回以上30名]	(1) ア 今年度は遅刻8回の生徒について指導を行い、結果10回を越えた生徒は25人であった。人数は昨年度と大きく変わらないが10回を越えている生徒も指導後は遅刻の頻度が下がっており、一定の効果はあったと考えられ、引き続き粘り強く指導を行う（○）
	イ 合同LHRを活用し、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育む	イ 合同LHRを活用して交通安全講話・薬物乱用防止啓発講座・消費者被害防止啓発講座を行うことで道徳心・自制心をはぐくみ、自他を大切にすることとマナーを守る態度を育てる	イ 講演会後のアンケートにおいて、「自身はもとより、自他の健康や安心安全について改めて考えるよい機会になった」との回答85%を維持できるよう、講演内容を充実させる [88%]	イ 各学年において実施した交通安全講話、3年生対象に実施した薬物乱用防止啓発講話、1年生対象に実施した消費者被害防止啓発講話の事後アンケートにおいて、「自身はもとより、自他の健康や安心安全について改めて考えるよい機会になった」との肯定的な回答が全学年で90%を上回った（○）
	(2) ア 様々な体験や思索の機会等を通し、人としての在り方生き方について考えを深めさせる	(2) ア 全ての教育活動をととして人権教育を推進することはもとより、学年ごとにテーマを設定した人権学習会、外部講師を招聘した人権講演会を開催し、人としての在り方生き方について考えさせる	(2) ア 学年別学習会、外部講師による講演会後のアンケートにおいて「人権に関する考えがより深まった」という回答が95%を維持する [97%]	(2) ア 各学年別にテーマを設定した人権学習会・人権講演会の事後アンケートにおいて、「人権に関する考えがより深まった」との肯定的な回答が全学年で95%を上回った（○）
	イ 様々な情報を正しく安全に利用するための知識・スキルの習得に向け、情報モラル教育を徹底する	イ 成年年齢の引き下げに伴う消費者責任をはじめ、政治や社会への積極的な参画に向け、関係教科・HRでの指導、外部講師による情報モラル講演会を実施し、情報モラルの向上をはかる	イ 生徒アンケートにおいて「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」との質問に対し、「できる」との回答が90%以上を維持する [95%]	イ 「情報機器の取り扱いに際し、危険を回避し責任ある行動をとることができるか」の「できる」との回答は95%であった（○）
	(3) ア 進路に関する具体的な情報を知る機会を増やすことで生徒の進路意識を高める	(3) ア・公共職業安定所や大学・専門学校と連携し、各学年を対象にキャリア教育に関する講演会・説明会を開催する ・講演会等を活用することで早期の段階から進路に関する意識を高めさせ、就職希望者の内定率を高い水準で維持する	(3) ア・進路に関する講演会・説明会を年3回以上行う [1学年1回、2学年1回、3学年1回] ・就職内定率を100%にすることはもちろん、一次内定率が90%以上を維持する [就職内定率100%、一次内定率92.1%]	(3) ア・1学年 進学用説明会3回 公務員説明会1回 就職用説明会1回 2学年 進学用説明会2回 公務員説明会1回 就職用説明会1回 3学年 進学用説明会3回 就職用説明会5回 (◎) ・就職内定率100%、一次内定率90% (○)
	イ 進学希望者に対して定期的な進学補講を行うことにより、進学率を向上させる	イ・高専編入学希望者一人ひとりに応じた学習計画を立案し、数学や英語などの教科と連携し、編入学試験対策補講を実施する ・進学補習を通じて例年50名以上が進学する大阪工業大学の過去問に取組み、合格者数を増加させる	イ・特色ある進路選択の一つである工業高等専門学校への編入学試験合格率が70%以上を維持する [75%] ・大阪工業大学の専門高校特別推薦入試において、80%以上の合格率を維持する [84%]	イ・国公立工業高等専門学校4年次編入試験10名合格/編入希望者13名 77% (○) ・大阪工業大学の専門高校特別推薦入試合格率は82% (○)
ウ キャリアパスポートノートにおいて自己のキャリア形成をはじめ、地球規模での課題である環境にも意識をめぐらせる	ウ キャリアパスポートノートを通じてSociety5.0の時代に生きる人材としての役割、AIの果たすべき役割等について学習させ、情報化に対する意識、興味・関心を高める	ウ キャリアパスポートノートについてのアンケートを実施し、情報機器を用いて進路に関する情報を収集している割合を全学年とも65%以上にする [1年35% 2年50% 3年75%]	ウ 情報機器を用いて進路に関する情報を収集している割合 1年83% 2年72% 3年72% (◎)	
エ 生徒会活動の一層の充実と部活動のさらなる活性化により帰属意識や自治意識を高める	エ・生徒議会、朝の挨拶運動、都工祭（体育祭・文化祭）を通して生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、生徒主体の学校行事をつくり上げる	エ・生徒議会を10回開催し、生徒の意見を集約・実践することで開かれた学校づくりを行う [10回]	エ・生徒議会を10回実施した (○)	

<p>2 豊かであ たくまし い人間性 のはぐく み</p>	<p>オ 学校保健活動を充実させ、心身の健康や体力を保持増進するための力を育成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや文化、科学等に親しむことで学習意欲、体力、技能を向上させ、責任感、連帯感の涵養等につなげるため、部活動をより活性化することに取り組む ・職員保健委員会及び生徒保健委員会の活動をさらに活性化させ、学校保健活動の充実をはかるとともに、教職員・生徒の心身の健康や体力を保持増進するための啓発活動を行う ・生徒に対する保健指導、健康相談などを学校医等関係諸機関と連携して行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 70%以上を維持する [72%] ・全部活動の入賞を 20 回以上とし、部活動の活性化に繋げる [18 回] ・職員保健委員会及び生徒保健委員会を年 5 回以上実施し、年間を通じたテーマを定め研究活動を行い、成果を発表する [新規] ・定期健康診断を 100%受検（長期欠席者を除く）させ、健康診断の事後措置を 2 回以上行う [新規] 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は 72%である (○) ・全部活動の入賞は現在 18 回である (△) ・職員保健委員会を 5 回、生徒保健委員会を 5 回実施した。今年度のテーマは【あなたの「印象」level UP!!～都工生の身だしなみ～】とし、全保健委員で考えた川柳のポスター48 枚を校内に掲示した。また PTA 保健厚生委員と連携し、生徒保健委員を対象に花王の協力を得て身だしなみ講習会を実施した。(○) ・6月に内科・眼科7月に耳鼻科・歯科の欠席者用の検診機会を設け、長期欠席者を除いて 100%受診させた。定期健康診断直後、7月の終業式までに受診を勧める文書を 2 回配付した。夏季休業明けに再度受診の推奨を文書で行い担任の協力を仰ぎ指導した。その後9月中旬より受診できていない生徒を個別に呼び出し4回以上の健康相談を実施している。歯科については受診できていない生徒に対し校医による健康相談を実施した。内科 88.9%、尿検査 100%、視力 89.8%、眼科 100%、歯科 86.8%、耳鼻科 82.8%、聴力 100%、全体としては 87.2%の受診が完了しており継続しての指導の効果が現れている (○)
--	---	---	---	---

<p>3 専門的な知識・技術の定着</p>	<p>(1) 各種競技会への出場をはじめ、就業体験活動などを通して様々な職業や年代などつながりを持ちながら協働して課題の解決に取り組む姿勢を養う</p>	<p>(1) ・「レスキューロボットコンテスト」に参加し、災害救助に関する取り組みを通じて技術を学ぶだけでなく、協同し、災害に強い社会を創生するという共通課題の解決をめざす ・建築設計競技にチャレンジすることで専門的知識を向上させるとともに、コンペで認められるための資料づくり・プレゼンテーション技術の向上をはかる ・ものづくりコンテスト（木材加工部門）にチャレンジし、現在の建築技術をはじめ、伝統工法による技術・技能を継承する ・「ものづくりコンテスト（測量部門）」にチャレンジし、外業とデータ処理を通じて測量スキルを向上させるとともに、国家資格である測量士補試験に合格し、技術系公務員としてのキャリアにつなげる ・「コンクリートカヌー競技大会」「橋梁模型コンテスト」などものづくり系競技大会に出場し、制作過程の学びを通して専門的スキルを習得させる ・工業6学科ごとの先輩講座やOB進路懇談会を開催し、技術者としての在り方や進路選択の方法について学ばせる</p>	<p>(1) ・レスキューロボットコンテストの本選出場を果たす 〔本選未出場〕 ・建築設計競技での入賞、ものづくりコンテスト（木材加工部門）近畿大会出場を果たす 〔建築設計競技2名佳作入選〕 〔木材加工部門近畿大会3名出場〕 ・ものづくり系の大会において、入賞を果たす 〔測量部門4位〕 〔コンクリートカヌー競技大会2位〕 〔橋梁模型コンテスト 入賞せず〕 ・各学科で先輩講座を1回以上開催する。受講後にグループディスカッションを行い、技術者としてのあり方について考えさせ、それに関するレポートを提出させる 〔各学科1回実施〕</p>	<p>(1) ・本戦出場は果たせなかった（△） ・建築設計競技で、中央工学校主催の高校生対象コンペティションに3名入選、ものづくり大学主催に2名入選、大阪府主催に1名入選した ものづくりコンテスト（木材加工部門）は大阪大会で上位入賞し、近畿大会に2名出場。結果は7位であった（○） ・測量部門 2位 コンクリートカヌー競技大会 製作の部1位 アイディアの部1位 総合の部2位 橋梁模型コンテストに3橋出品 入選ならず（○） ・各学科、先輩講座を1回以上実施した（○）</p>
	<p>(2) 各学科で専門資格試験にチャレンジし、合格率を高めるとともに職業と資格の関連を理解させ、明確な進路意識を確立する</p>	<p>(2) 各学科で以下の資格試験に取組み、学ぶ意識の向上につなげるとともに、ジュニアマイスター顕彰受表彰者を60名以上輩出する ・技能検定機械加工普通旋盤作業3級 ・技能検定機械検査機械検査作業3級 ・機械保全技能検定機械系保全作業3級 ・機械製図検定 ・2級建築施工管理技士補 ・建築大工技能士 ・建築CAD検定 ・測量士補 ・2級土木施工管理技士補 ・第三種電気主任技術者 ・第一種電気工事士 ・第二種電気工事士 ・基本情報技術者 ・ITパスポート ・危険物取扱者（乙種第4類）</p>	<p>(2) 各資格検定等の合格率を次のとおりとする ・ジュニアマイスター顕彰 計60名以上 [96名] ・普通旋盤作業3級 50%以上 [75%] ・機械検査作業3級 70%以上 [91%] ・機械保全技能検定3級 70%以上 [100%] ・機械製図検定 70%以上 [57%] ・2級建築施工管理技士補 40%以上 [41%] ・建築大工技能士3級 80%以上 [87%] ・建築大工技能士2級 2名以上 [5名] ・建築CAD検定3級 60%以上 [93%] ・建築CAD検定2級 50%以上 [72%] ・測量士補 25%以上 [25%] ・2級土木施工管理技士補 85%以上 [87%] ・第三種電気主任技術者 3名以上 [3名、全国高校生合格者ランキング第1位] ・第一種電気工事士 60%以上 [75%] ・第二種電気工事士 70%以上 [62%] ・基本情報技術者 3名以上 [2名] ・ITパスポート 15名以上 [10名] ・危険物乙種第4類 25%以上 [23%]</p>	<p>(2) ・ジュニアマイスター顕彰 計75名（○） ・普通旋盤作業3級 80%（○） 10名受験8名合格 ・機械検査作業3級 67%（△） 24名受験16名合格 ・機械保全技能検定3級 100%（○） 6名受験6名合格 ・機械製図検定 46%（△） 48名受験22名合格 ・2級建築施工管理技士補 21%（△） 68名受験14名合格 （自主受験の2年生30名含む） ・建築大工技能士3級 100%（◎） 9名受験9名合格 ・建築大工技能士2級 3名合格（○） 5名受験 60% ・建築CAD検定3級 95%（◎） 40名受験38名合格 ・建築CAD検定2級 56%（○） 9名受験5名合格 ・測量士補 23%（△） 73名受験17名合格 ・2級土木施工管理技士補 40%（△） 47名受験19名合格 ・第三種電気主任技術者（上期）4名（◎） 〔上期・全国高校生合格者ランキング第3位〕 ・第一種電気工事士 79%（◎） E科31名 ME科6名 A科1名合格 ・第二種電気工事士 59%（△） 117名受験69名合格 ・基本情報技術者 1名（△） 2名受験50% ・ITパスポート 12名（△） 26名受験46% ・危険物取扱者乙種4類 39%（○） 28名受験11名合格</p>

府立都島工業高等学校

<p style="text-align: center;">4 学校 の 組 織 力 向 上</p>	<p>(1) 6学科を有し、進学にも就職にも強みのある本校の魅力を積極的に対外的に発信する。</p> <p>(2) 将来計画委員会を通じて総合募集をはじめ、さらなる魅力化について検討を進める</p> <p>(3) 本校独自の教育コミュニティを構築し、学校力向上に向けた環境整備をはかる</p> <p>(4) 教職員の働き方改革を推進する</p>	<p>(1) 学校ホームページ、体験入学、学校説明会、公開授業、出前授業、文化祭等で中学生はもちろんのこと広く大阪府民に本校の魅力を発信し工業高校のよさを理解してもらうとともに、志願者増に繋げる</p> <p>(2) 将来計画委員会を定期的に開催し、府教育庁とも情報交換をしながら、総合募集を見据えた本校のさらなる魅力化について検討を進める</p> <p>(3) 本校同窓会「一般社団法人浪速工業会」との連携による「教員のための技術講習会」を行う。また、教員間の学習会・授業見学を積極的に行い、意見交換を通じて自己研鑽に努める</p> <p>(4) 教職員一人ひとりが校務に対する取り組み方について見直すことで毎週1回の全校一斉退庁日を設定するとともに、毎月2回の定時退庁日を各自で設定し実践する</p>	<p>(1) ・学校ホームページを年間150回以上更新し、日々の学校の取組みを伝える 〔新規〕</p> <p>・文化祭に3,000人以上の一般の方に入場してもらい、本校生徒の様々な教育活動の成果を広める 〔新規〕</p> <p>(2) ・他府県の総合募集制導入校を2回以上訪問し情報収集を行う 〔新規〕</p> <p>・魅力化を検討するうえで中学生のニーズを把握するため、中学校との情報交換の場を年3回以上設定する 〔新規〕</p> <p>(3) 各学科で年1回、本校の施設・設備を活用した教員のための技術講習会を開催する 〔各学科1回開催〕</p> <p>(4) 時間外在校時間月平均80時間以上の職員を13%以下にする 〔13.1%〕</p>	<p>(1) ・年間191回更新した。 課業日はほぼ毎日更新できている (○)</p> <p>・11月11日(土)12日(日)に実施した文化祭の外部からの来場者数は3,581名であった (○)</p> <p>(2) ・京都市立京都工学院高等学校と愛知県立愛知総合工科高等学校を訪問し、総合募集性のメリット・デメリットについての情報収集を行った (○)</p> <p>・中学校教員対象の進学懇談会を2回実施した。また、府下の中学校管理職との中学生のニーズについての情報交換を3回行った (○)</p> <p>(3) 3学科で教員技術講習会を実施した(△)</p> <p>(4) 時間外在校時間月平均80時間以上の職員は3.0%であった(◎)</p>
---	--	--	---	---